

令和5年度京都市動物愛護推進会議 摘録

1 開催日時

令和5年9月5日（火） 午後2時～午後3時30分

2 開催場所

京都市役所本庁舎 1階 第1会議室

3 出席者（敬称略）

<委員>

森 尚志 （座長、公益社団法人京都市獣医師会 会長）
上村 享 （近畿ケネル協同組合 理事）
大國 智子 （市民公募委員）
岡村 公子 （京都市地域女性会 常任委員）
多田 雅純 （京都市保健協議会連合会 副会長）
中村 友彦 （京都市教育委員会 総合教育センター 主任指導主事）
古橋 博昭 （公益財団法人関西盲導犬協会 常務理事）
升光 泰雄 （公益社団法人京都市私立幼稚園協会 監事）
松岡 幸子 （認定NPO法人アンビシャス 理事長）
村田 裕史 （公益社団法人京都市獣医師会 副会長）
和田 晴太郎（京都市動物園 副園長）

<事務局>

安部 康則（保健福祉局長）
伊東 大輔（動物愛護センター所長）
篠崎 史義（医療衛生企画課生活衛生担当課長）
塩田 幸弘（医療衛生企画課動物愛護係長）

4 次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 内容
報告事項
 - ・第二期京都市動物愛護行動計画に基づく実績（令和4年度）について
 - ・京都市動物愛護推進部会における協議状況について
- (5) 閉会

5 会議録

- (1) 「第二期京都市動物愛護行動計画に基づく実績（令和4年度）」（資料1）について

【委員】 災害時におけるペットとの同行避難について、資料では令和4年度末時点で9.5%の指定避難所がマニュアル化出来たとのことで、次の段階に進む必要があるのではないかと。例えば、今のマニュアルでは、ペットの避難場所は原則屋外としてある。京都市は大雨や土砂災害なども比較的多く、雨の中、屋外のグラウンドにテント等を設置してペットの避難場所を作ることも現実的ではないため、空き教室を同伴避難者専用に使えないか等、柔軟な対応を施設側にも検討してもらえよう、市からも

働きかけてもらいたい

【事務局】 これまでの取組によって、施設側・運営者側へもペットが避難所に来ることについて、一定理解をいただいている状況である。引き続き、必要な取組について周知啓発に努めてまいりたい。

【委員】 災害時には、京都市獣医師会の会員病院で被災したペットの受入などは行えるのか。

【委員】 以前に会員病院からアンケートを取った際には、ほとんどの病院が協力を考えているとの回答であった。災害時の対応については、京都市獣医師会だけでなく、近畿地区連合獣医師会としても協力体制を確認している。

【委員】 冊子「ペットの避難どうしよう」についても、平成29年に作成以降、内容が変わりがないのであれば、バージョンアップを検討してはどうか。実際の取組例や、困った点、良かった点など取りまとめた資料があれば、避難所運営者にとっても有益な情報と思われる。

【委員】 飼い主向けの啓発も進める必要がある。特に猫については、避難所へ行くことがペットにとって負担となるケースが多いため、避難所への避難以外に、自宅で垂直避難やペットサロン等の施設での預かりを検討するなど、色々な選択肢を示してあげられると良い。

【委員】 選択肢が複数あることについて、今後も情報発信は必要である。ところで、動物愛護センターボランティアについて、卒業された方は何か活動をされているのか。

【事務局】 卒業ボランティアについては、お住まいの地元を中心に動物愛護の啓発や動物愛護センターの取組紹介などに協力いただきたいと考えている。コロナ禍では、卒業ボランティアを参集して、研修やイベント等を企画することが難しかったが、今年度から再開していきたい。

【委員】 本日、小学校でのアニラブクラスを動物愛護センター職員と実施してきた。コロナ禍でここ数年間開催できていなかったこともあり、職員の方も全員未経験だった。例えば、卒業ボランティアの方にもアニラブクラスに参加してもらうなど、関わる人が増えれば、内容の伝達もスムーズになるのではないかな。

【委員】 センターの事業への参加や、地元での活躍例の紹介など、卒業されたボランティアへも道を示して活用していくことは良い取組だと思う。動物愛護センターにおける犬猫の収容数が年々減少している、という報告もあったので、これまでの業務よりも余力が生まれているのであれば、新しい取組も進めていけるのではないかな。

【委員】 アニラブクラスについては、体験した園児たちにも特別な思い出となり、良い取組だと思っている。一方で、最近はアレルギーをもつお子さんが非常に多く、園として実施できないと考えるところも多い。何か代替え案や、対策などは検討されているのか。

また、高齢者とペットの問題について、飼い主である高齢者の方への啓発の他、周りの関係者に対しても、どのような対策が必要で、どこに相談すればよいか等の周知を行っていく必要があると思う。

最後に、収容数等の実績報告について、現状の課題や求めるアイデアなども併せて投げかけていただけると、より前向きに進むための議論が生まれるのではと思うので、次回以降参考としていただければと思う。

【事務局】 いただいた御意見を参考に、取組を進めてまいりたい。なお、高齢者とペットの課題と対策については、部会においても議論を進めており、次の議題で詳しく御報告させていただく。

【委員】 一つ伺いたいのが、ゼスト御池から京都市役所へ繋がる通路について、市の取組につ

いて展示されていたが、動物愛護の取組や動物愛護センターの周知ポスター等についても展示してはどうか。

【事務局】 展示場所を管理している部署を確認して、動物愛護についても取組展示が可能かどうか、確認を進めていく。

(2) 「京都市動物愛護推進部会の協議状況」(資料2)について

【委員】 動物愛護フェスティバルについて、今年から会場が変わるが、実施後に振り返りを行い、来年度以降の会場についてどうするか検討を行ってほしい。これまでの岡崎公園ではペット連れの来場者も多く非常ににぎわっていたが、新たな会場はペットの参加についても制約があるため、来場者数がどうなるか気になるところである。また、猛暑の影響で、9月末に屋外でイベントを実施することも厳しくなりつつある。動物愛護週間は屋内でのイベントのみとし、屋外イベントについては開催時期をずらすなども検討が必要ではないか。

【委員】 以前に、みやこめっせでペット博を開催しており、ペットの来場が可能だった記憶がある。屋内でペット連れが可能な施設について、幅広に調べてみてはどうか。

【委員】 動物愛護センターでイベントを開催することは、騒音などの関係からやはり難しいのか。

【事務局】 動物愛護センターの周辺は住宅地となっているところもあり、数千人の来場を見込んだ屋外イベントを行う場合は、地元との調整が必須だと考えている。ペットの来場が可能な屋内施設についても、引き続き調査を行っていくが、まずは今年のイベントについて成功させたいと考えている。

【委員】 多頭飼育・ひとり暮らし高齢者対策の取組として、ペットの終活相談会やセミナーを開催したとのことだが、参加人数はどのくらいか。

【事務局】 ペットの終活セミナーはオンライン配信で実施し、延べ332回の視聴回数であった。終活相談会について、区役所3か所で開催したものについては、平日開催で特に告知も行わなかったこともあり、延べ10名程であった。イオン洛南ショッピングセンター開催分については、事前周知の甲斐もあってか、参加を目的に来場された方も5~6名おられた。また、ショッピングセンターという立地のため、展示内容に興味をもって足を止めていただいたかたも多く、成果があったと思われる。

【委員】 イオン洛南ショッピングセンターでは、ペットの防災対策についてのパネル展示も行っていたため、終活相談だけでなく、様々な角度から発信していくことで、興味を持ってもらえたのではないかなと思う。立地も動物愛護センターと近く、以前に犬猫を譲渡された方も何名かおられた。また、市民しんぶんの広報は、年配の世代への周知にとっても効果的だと思われるので、今後も開催する際は広報の仕方は大事だと思う。

【委員】 今後もイオンの施設で同様の取組を実施していくのか。京都駅前や桂川のイオンなどは利用者も多く、効果的な発信ができるのではないかな。

【委員】 京都駅前や桂川イオンについて、南区の事業であれば優先的に利用できる枠組みがあるかもしれないので、確認してみてもどうか。

【事務局】 取組は今後も続けていきたいと考えている。会場について、様々な提案をいただき感謝する。会場使用料も検討しつつ、より効果的な場所を選定していきたい。

【委員】 最後に、京都市獣医師会から案内させていただきたいことがあるので、時間をいた

だいてよいか。

【委 員】 京都市が取組を進めている、ペットの終活相談や多頭飼育対策などの様々な課題について、京都市獣医師会の会員である臨床獣医師は、日々の病院業務の中で飼い主の方からの相談に応じるなど、これまでの経験から協力できるところも多くあると思われる。また、学校における動物愛護教育についても、獣医師会としての繋がりもある。これまでも京都市と連携した事業を行ってきたが、今後はもっと幅広く協力できることもあるかと思うので、アイデアや御相談をいただきたい。全国の獣医師会の中でも、本市のように密にやり取りをしている地域は珍しいらしく、先進例として報告できればと考えている。

【事 務 局】 連携強化の申出をいただき感謝申し上げます。どのような取組が可能か、また協議して御相談させていただきたい。